

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「日本一の定時制高校」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、自己実現のサポート体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入って良かった。」と実感できる学校づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、社会の一員として自立した生活を営むことのできる力を養う。

## 2 中期的目標

**(1) 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長**

- 生徒の自己実現を促進するための取組み
  - ・少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりの推進
  - ・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習の実施
  - ・外部指導員等の活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上
- 生徒の学力の正確な把握
  - ・適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と適確な個別指導の展開
    - ※職業適性検査等の実施 (H25：1年次生対象)
    - ※数学基本力調査の実施 (H25：1年次生対象)

**(2) 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり(スクールソーシャルワークの組織的体制づくり)**

- 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み
  - ・新入生の情報の収集、及び中学校との連携強化による支援方策の検討
    - ※特別な配慮が必要な入学予定生の出身中学校を全校訪問する。(H25：すべての出身中学校と電話で情報交換)
  - ・全教職員の生徒情報を共有するシステムの充実と細やかな指導による卒業率の向上(進路情報連絡会の設置)
    - ※卒業率を5ポイント引き上げる。(H25：3年次生7/10名、4年次生24名/30名)
- 校内支援組織の整備と充実
  - ・生徒支援委員会の機能強化と生徒情報の共有化を行うことによる支援体制の充実
    - ※「高校生活支援カード」「気になるメモ」等のファイルリングによる個人カルテ(仮称)の作成
  - ・SSW活動の推進
    - ※専門家と生徒、保護者、学校との連携による個別支援計画の作成
    - ※児童精神科医、SC、SSWとのケース会議の開催

**(3) キャリア教育と人権教育の充実**

- 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の実践
  - ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
    - ※学校斡旋就職内定率(H25：4/4名)を100%を維持する。
  - ・校内キャリア教育推進委員会、人権教育推進委員会の活性化
  - ・生徒一人ひとりの希望に沿った進路指導の充実
    - ※進路未決定率(H25：25%)を5%減少させる。

**(4) 学校力の向上**

- 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進
  - ・教職員研修の充実
  - ・教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築
    - ※研究授業のあり方を検討する。
  - ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
    - ※他校の先進事例等の研究を推進する。
  - ・静かな教育環境の保持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るための組織的な指導体制の構築
    - ※教員相互の指導体制の平準化を図る。
  - ・教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の再構築
  - ・部活動の活性化(H25：運動部53名、文化部39名/158名 7/1現在)
  - ・保護者との連携強化
  - ・将来の学校像を長期的に検討するための将来構想委員会(P.T)を活性化させる。

**(5) ICTを活用した校務の効率化**

- 校務の効率化による生徒と向き合う時間の確保
  - ・生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進
    - ※ICT委員会を中心とした新校務処理システムへの移行業務の点検
    - ※ICT機器を使った授業についての研究(視覚教材の活用を推進)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>回収率（在籍数 149 名 教員 17 名）</p> <p>保護者 6.7% 生徒 53.0% 教員 82.4%</p> <p>回収率は昨年度に比べて生徒が微増しているしているが保護者・教員は昨年度と同程度の回収率である。</p> <p>生徒の評価の高いもの</p> <p>○生徒「先生は生徒の意見を聞いてくれる」91% (H25:84%) 保護者「教職員は子どもを理解している」80% (H25:90%) 教員「教職員は生徒の意見をよく聞いている」93% (H25:100%) 教職員の生徒理解についての項目は生徒から91%と高い評価を得た。</p> <p>○生徒「学校は進路について情報を知らせてくれる」92% (H25:83%) 保護者「進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」50% (H25:80%) 教員「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるように、きめ細かい指導を行っている」93% (H25:88%) 生徒と教員の思いはほぼ一致しているが、保護者のデータが低い。回答率が保護者が極端に低くなっていることから、家庭との意思疎通が課題。(データが少ないので結果のバラツキを評価することが難しい)</p> <p>○生徒「文化祭や楽しく行えるように工夫されている」90% (H25:77%) 保護者「文化祭やスポーツ大会・修学旅行などの学校行事は積極的に参加できるように工夫されている」80% (H25:82%) 教員「学校行事が生徒にとって魅力あるものとあるよう、工夫・改善を行っている」100% (H25:94%) スポーツ大会は昨年度まで公開しなかったが、保護者の参観を試行した。行事については3者の評価は高い。</p> <p>全体として「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が全項目の平均を比較すると</p> <p>生徒（50項目）4.1ポイント 増 教員（83項目）1.5ポイント 増 保護者（40項目）1.8ポイント 減</p> <p>課題として保護者との意思疎通に行事や成績・進路等の機会を利用して努力する必要がある。(ただし、昨年度と同様の連絡は行っている。) アンケートの項目で分かりにくいものが多いと指摘があるので、答えやすい質問項目の検討が必要である。</p>	<p>第1回 学校協議会（平成 26 年 7 月 22 日（火））</p> <p>○学校経営計画の説明 志願者数の減少による学校規模の縮小が続いている。昨年度と比較するとクラス数減のため教員が4名減少した。ただ在籍数は10名減にとどまり、SSWを推進していることもあり生徒への丁寧な対応のため、教員への負担が増大している。</p> <p>意見 中学校への広報を推進して、志願者を増やすことを考える。 地域の連携（中小企業家同友会や若者サポーター・ネットワーク等）を進め、生徒の卒業後の進路保障についてSSW活動を推進してほしい。</p> <p>○平成 25 年度第 2 回授業アンケートについて報告 授業アンケートを各教員へフィードバックしている。今年度は学校全体で視覚教材、特に ICT 機器の活用を考えた研修（パッケージ研修）を実施する。次回に各委員には授業見学をお願いしたい。</p> <p>意見 授業アンケートについては単なる数字がひとり歩きする心配がある。質問の内容等も工夫が必要。</p> <p>○平成 27 年度教科書選定について 資料を提示、実物を閲覧していただいた。</p> <p>第2回 学校協議会（平成 26 年 9 月 22 日（金））</p> <p>○パッケージ研修で作成した「授業観察シート」の説明と授業見学 授業の初めに挨拶と授業の段取りの提示、視覚に訴える授業づくりをテーマに行っている。</p> <p>意見 定時制の授業は困難さを予想していたが、逆に寝ている生徒もほとんどおらず、先生の話がスムーズに展開していて安心した。生徒と教員の信頼関係ができていると感じた。生徒中心の授業づくりを考えることも大事。</p> <p>○第 1 回授業アンケート（7 月 10 日実施）の結果報告 昨年度同様実技科目の結果が座学科目より良い傾向がある。全体的には肯定的な回答が多い。特に 4 年生の評価が高い。</p> <p>意見 教員や教科によって大きな差は見られないようである。 科目によっては社会現場の題材を用いるのも具体的で良い。</p> <p>第3回 学校協議会（平成 27 年 2 月 6 日（金））</p> <p>○授業アンケート、学校教育自己診断等の本年度取組報告と次年度の課題について 授業アンケート 全体平均 3.18 から 3.28 へ 0.1 ポイントアップした。 定時制生活実態調査において「学校生活について」否定的な意見が 23% (H25) から 7% (H26) へ減少した。出席率が昨年度と比較して 10% 向上している。</p> <p>意見 教員と生徒間には良い関係が進んでいるようだが、保護者までそのことが伝わらないのが課題。保護者会の開催等を積極的に進める必要がある。 回答 次年度は保護者対象の進路説明会等を企画している。</p> <p>○SSW 活動の推進とパッケージ研修で興味ある授業づくりを推進したことを説明した。平成 26 年度の進路先について簡単に報告。</p> <p>意見 一般の就労が難しい生徒が在籍されている。 回答 福祉関係のスキルが求められています。SSW 活動で対応していますが、職員が少なく苦労しています。</p> <p>○志願者数の減少対策として入学相談会や公開授業を丁寧に行い、入学相談件数が増加したことを報告。</p> <p>意見 入試制度の変化が激しく中学校側としても困惑している。 どんな学校づくりをしたいかを明確にしてはどうか。定時制の役割が変化している。 回答 セーフティネットの役割を担っています。学び直しの生徒に柔軟に対応しています。そのあたりをアピールする工夫が必要です。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の 最大の伸長	<p>(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p> <p>ア 社会で必要とされる学力を身につけるための教育活動の工夫</p> <p>(2) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>イ 生徒の潜在能力の発掘と適確な個別指導の徹底</p>	<p>ア 少人数授業や必要に応じた授業を行い、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習を実施する。</li> <li>外部講師の活用によりコミュニケーション力のさらなる向上を図る。</li> </ul> <p>イ 適性検査の実施及び英検・漢検の受検機会を促進し生徒の能力の適確な把握に努める。</p> <p>ウ 学習環境の整備を進める。</p>	<p>ア 「授業アンケート」における「授業内容に興味・関心を持つことができていますと感じている」、「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」の肯定率を80%以上を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度を(H25 : 98.4%)を維持する。</li> </ul> <p>イ 適性検査等を実施し、個人カルテを作成し生徒指導に生かす。</p> <p>ウ ICT機器の活用状況</p>	<p>ア 授業アンケートについて平均して80%の肯定率を維持できた。(◎)</p> <p>「授業内容に興味・関心を持つことができていますと感じている」</p> <p>座学 76% 実技 81% (第1回) 座学 80% 実技 86% (第2回)</p> <p>「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」</p> <p>座学 79% 実技 86% (第1回) 座学 80% 実技 87% (第2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>T-NET 外国語外部講師の活用満足度 87% (○)</li> </ul> <p>イ 校内支援委員会で検討し、「エルおおさか」の「仕事フィールド」で実施、生徒の将来に向けてのプランニングに活用した。(○)</p> <p>事業所で予約を取るのだが数か月先の実施になり、保護者との連携にタイムラグが生じることが課題。</p> <p>ウ パワーポイントを活用した授業が多くなった。ICT環境の整備が課題となっている。(○)</p>
2 生徒各自に必要な支援を行える 体制づくり	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p> <p>ア 生徒情報の収集と実態把握</p> <p>イ 個人情報集約化とファイリング</p> <p>(2) 校内支援組織の整備と充実</p> <p>ウ 生徒支援委員会の機能充実</p> <p>エ 生徒相談活動の機能充実</p> <p>オ スクールソーシャルワーク活動の活性化(SSW)の導入</p>	<p>ア 合格時点から新入生の情報を収集するとともに、中学校との連携を強化し、必要な支援方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が生徒の情報を進路情報連絡会で共有し、個別支援により卒業生数を増加させる。</li> </ul> <p>イ 「高校生活支援カード」や「気になるメモ」等を活用し個人カルテを作成する。</p> <p>ウ 生徒支援委員会の機能強化 S C、SSWとのケース会議により生徒の進路プランニングを行う。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所作り。保健室、S C、関西大学臨床心理専門大学院と連携した相談室の設置</p> <p>オ 生徒の個別の支援計画を策定する。</p>	<p>ア 特別な配慮が必要な生徒の学予定生の出身中学校を全校訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業率を5ポイント引き上げる。 H25 : 3年次生 7名 /10名 4年次生 24名 /30名</li> <li>中退率を前年度5%を減少させる。 H25 : 22名/161名 (3月末)</li> <li>全校生徒の出席率を前年度比で上昇させる。 H25 : 60% (H25 : 3月末)</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断の評価において「担任に先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」(H25 : 77.5%)、「悩みや相談に親身となって応じてくれる先生が多い」(H25 : 84.5%)「学校に行くのが楽しい」(H25 : 82%)の項目を前年度より少しでも向上させる。</p> <p>ウ ケース会議を10回開催することまた、プランニングの件数を増加させる。(H25 : ケース会議2回、プランニング1件)</p> <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率の向上 (H25 : 保健室延べ871件(22,675分) 関大院生163件、教員アンケート100%)</p> <p>オ 特別支援の生徒の個別支援計画を作成する。(H25 : 2件)</p>	<p>ア 新入生の出身中学校へ生徒情報の聞き取りを電話で行った。訪問はできなかった。(△)</p> <p>卒業率 (○) H26 : 3年次生 3名/5名 4年次生 21名/27名</p> <p>中退率 (△) H25 : 22名/161名 (3月末) H26 : 21名/149名 (3月末)</p> <p>出席率 (◎) H25 : 約60% (3月末) H26 : 約70% (12月末)</p> <p>イ 学校教育自己診断 (○) 3項目中2項目で向上した。 「担任に先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」(H26 : 80%) 「悩みや相談に親身となって応じてくれる先生が多い」(H26 : 86%) 「学校に行くのが楽しい」(H26 : 75%)</p> <p>ウ 10回のケース会議を開催した。また、総括会議を2月に設定し、次年度のSSW活動の計画を立てる。 S C、SSW、C C等を有機的に関連づけた活動を可能にしたい。(◎)</p> <p>エ 生徒の相談件数 (○) 生徒の認知度も上がり、気軽に相談できる体制ができています。</p> <p>保健室 953件 (12月末) 関大院生 497件 (12月末) 教員アンケート 93% (肯定的意見)</p> <p>オ 個別支援を具体化 SSWのケース会議で方針を探った。 H26 : 4件 (○)</p>

## 府立大手前高等学校

<p style="text-align: center;">3 キャリア教育と人権教育の 充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の策定</p> <p>ア 計画の企画立案の核となる組織づくりの推進</p>	<p>ア ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携した就労指導のスキルを向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</li> </ul> <p>イ 支援教育サポート校からの支援を受けて、障がいのある生徒の就労について、校内スキルを向上させる。</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率100%にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関との連携を図り、進路未定者数の5%減少に努める。(ただし不登校や障がい、年齢等を考慮し、進学就職が可能な生徒を割合の分母とする)</li> <li>就職コーディネーターの活用</li> </ul> <p>イ 障がいのある生徒の職業体験から就労まで繋がる進路指導の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のコミュニケーションスキルを向上させるためのWSや講話を実施する。</li> </ul>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率4名/4名(100%)2月末(○)進路未決定率(○)</p> <p>H25 :12.9%</p> <p>H26 :8.6%</p> <p>就職コーディネーター(CC)を校長マネジメント経費で92時間活用した。また枚方若者ステーションからもCCを派遣していただいた。(○)</p> <p>イ 3件(3名)の職業体験を実施。(◎)</p> <p>ハローワークの紹介</p> <p>大阪市職業リハビリセンターの紹介</p> <p>本校独自開拓企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関西大学臨床心理専門職大学院生によるコミュニケーションWSを2回実施(対象1年生 2クラス)(○)</li> <li>6月10日カンパニークンセン・トレーニング2月3日ペーパータワー</li> <li>「卒業生のお話を聞く会」を実施(対象 全生徒)11月25日(○)</li> <li>3名の卒業生から進学・就職・生涯学習について講話</li> </ul>
<p style="text-align: center;">4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p> <p>ア 教職員研修の充実</p> <p>イ 教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築</p> <p>ウ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>エ 教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築</p> <p>(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備</p> <p>オ 部活動の活性化</p> <p>カ 保護者との連携強化</p> <p>キ 将来構想委員会(PT)の活性化</p>	<p>ア 教職員研修の系統立てた実施計画を策定する。</p> <p>イ 研究授業週間の一層の充実を図る。</p> <p>ウ 関西大学大学院等外部機関との連携を強化し、生徒の適性に沿った指導体制を強化する。また、他校の先進事例等の研究を推進する。</p> <p>エ 静かな教育環境の保持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るため、組織的な指導体制を構築する。</p> <p>オ 部活動の活性化により、生徒自らが学校生活に潤いを持てる環境を整備する。</p> <p>カ 保護者会と教員の懇談会を実施する。</p> <p>キ 志願者数減少の分析と教員数の減少に伴う校内組織の再構築の検討を行い、学校活性化を図る。</p>	<p>ア 特別支援、生活保護等の福祉関係の研修を複数回実施する。(H25 研修会数 11回)</p> <p>イ 研究授業のあり方を組織的に検討する。(パッケージ研修を軸に組み立てる)</p> <p>ウ 関西大学院生による生徒のメンタルサポート事業アンケート(教員向け)を実施し肯定率80%を目標とする。また、府内外の高校の取り組みについて情報交換を行う。</p> <p>エ 分掌や担任制についてPTにより組織の再編成について検討する。</p> <p>徒数生徒指導件数を目安に学校マナーの徹底を図る。(H25 懲戒件数 3件)</p> <p>オ 入部率を前年度を維持する。(H25 : 58.2%)</p> <p>カ 保護者進路説明会及び教員懇談会の実施(前期に実施)</p> <p>キ PT会議からの具体案の作成。(H25 : 1回開催)</p>	<p>ア 計9回の職員研修を実施</p> <p>生活保護(7/23)</p> <p>講師 大阪市区役所 枚方なぎさ高視察(9/26)</p> <p>講師 支援コーディネーター 本校教員による伝達研修を多く取り入れた。(◎)</p> <p>イ 相談活動の肯定的意見(◎)</p> <p>関西大学院生の活動(83.3%)</p> <p>SSWerの活動(83.3%)</p> <p>CCの活動(91.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>枚方なぎさ高校と意見交換</li> </ul> <p>エ 運営委員会を廃止し、新たに企画調整委員会を創設し、会議の簡素化を行った。また、各種委員会の整理統合をさらに進めていく。(○)</p> <p>徒数生徒指導件数を指標に学校マナーの徹底を図る。(○)</p> <p>(H26 懲戒件数 4件 2月現在)</p> <p>オ 入部率 52.3% (○)</p> <p>バドミントン部が全国大会(個人)近畿大会(団体)へ出場。</p> <p>キャッチボール同好会がNHK「ニュース関西」で取り上げられ、放送された。</p> <p>太鼓同好会が新たに活動を始めた。</p> <p>カ 保護者進路説明会は今年は個別懇談会になった。平成27年度にむけて年間行事計画に実施できるように企画中。(△)</p> <p>キ PT会議に代わるものとして企画調整委員会を設置月2回のペースで校内の課題に取り組んでいる。(○)</p>

## 府立大手前高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1) 校務の効率化による教員の生徒と向き合う時間の確保</p> <p>ア 生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進</p> <p>イ 特別支援教育の教材の開発</p>	<p>ア ICT委員会の機能強化と情報セキュリティの整備充実を図るとともに、円滑な新校務処理システムへの移行を図る。</p> <p>イ タブレット型PC、書画カメラ等のICT機器の活用による教材を開発する。</p>	<p>ア 校務処理システムが正常に稼働しているか点検を行う。</p> <p>イ ICT委員会においてICT機器の研修会を実施する。また、ICT機器を使った公開授業を実施する。</p> <p>ウ 特別支援の公開授業を見学し、定時制にあった教材を作成する。</p>	<p>ア ICT委員会が中心となり校務処理システムの管理や校内LAN内の個人情報等をクラウドへ移行させた。(◎)</p> <p>イ iPadの活用について職員研修を実施。H27年度は教室での無線LANのシステムを導入する(○)</p> <p>ウ PP(パワーポイント)を活用した教材を導入する教員が増加した。(○)</p> <p>プロジェクターが不足していることが課題</p>
---	--	---	--	--